

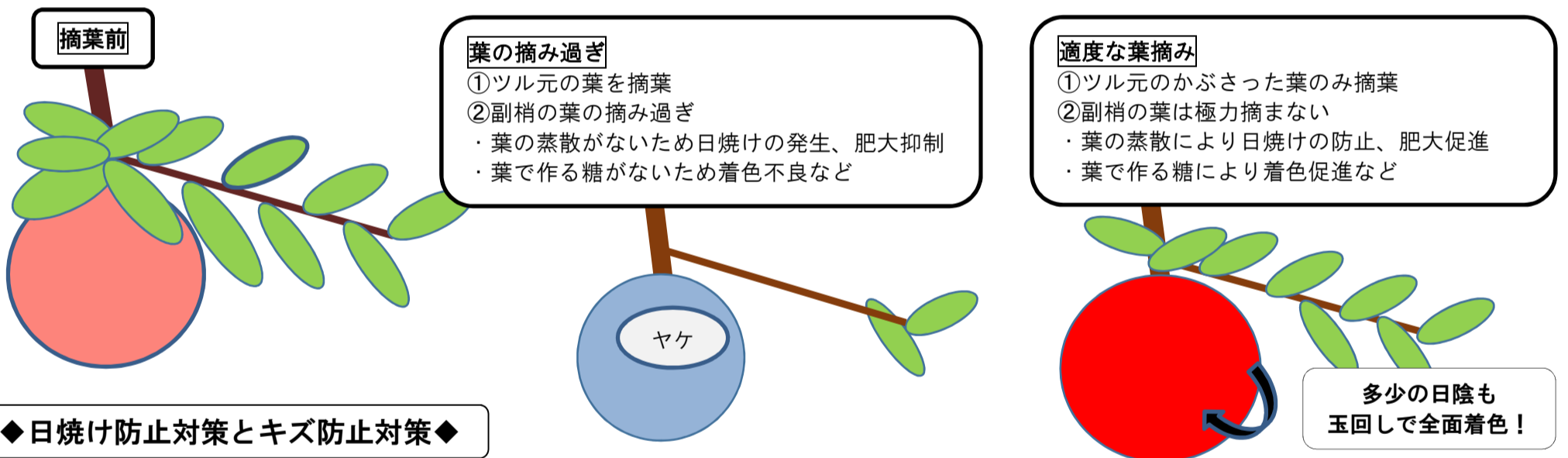
- ① 早生種では、落果防止剤の散布時期が早かったものや、早期から強い葉摘みをしたところでは、軟質果が目立っています。鮮度の良いうちにスグリモぎをするよう徹底しましょう。
- ② 本年は、園地や樹によって早生種つがるにビターピットなどの生理障害が散見されました。6月～7月の高温干ばつにより、果実へのカルシウムなどの転流が滞ったことが原因と考えられます。強樹勢では発生が増長されますので、樹勢を整えることが対策の一つとなります。
- ③ 品種構成、経営面積などにもよりますが、例年の作業時期ではなく、天候や品種特性、園地状況を考慮し、作業を組み立てるようにしましょう。
- ④ 葉摘みの時期や摘む程度は品種により異なります（裏面参照）。気温の低下と共に、葉で作られた糖で着色が進みます。品種により着色する温度が異なりますので、着色する温度を念頭に置き、週間予報などをよく確認し、葉の摘む時期と程度を確認し作業を行ってください。
- ⑤ ハダニが多くいる園地が見受けられます。防除は9月中旬頃まで行うようにしましょう。

### ◆早生種の JA 入庫日◆ スグリモぎで鮮度の良いものを！！

品 種	当 JA での入庫受付期間	注 意 事 項
き お う	8月28日～9月22日	スグリモぎが必要です。また、黄色品種はオセが付きやすいため、収穫や運搬の際には特に気をつけましょう。
未 希 ラ イ フ	8月28日～9月12日	軟質果に注意し、着色の進んだものからスグリモぎを徹底しましょう。スグリモぎを行うことにより、残った果実に対し葉の枚数が増加しますので着色が進みます。
サ ン つ が る	8月28日～9月22日	
葉取らずつがる	9月3日～9月22日	

### ◆中生種の着色管理◆ 着色する温度を見極めてから取り掛かりましょう。

- ① ひろさきふじ 葉摘みは最低気温が15℃を下回る頃から行います（例年9月5日以降）。葉摘みの時期が「ふじ」よりも高温なため、果実に付着している葉を中心に弱めに実施してください。玉回しは丁寧に行います。高糖度のひろさきふじは『夢ひかり』として販売しておりますので、葉を大切に、『夢ひかり』の生産向上に努めましょう！葉摘み後は、タイベックなど熱のこもらない白い反射シートを敷きましょう。
- ② ジョナゴールド 葉摘みは除袋前に行うと着色不良、軟質果の原因となりますので行わないでください。除袋後に葉摘みを行ない、力強い着色で、鮮度の良いジョナゴールドを収穫しましょう！平均気温が15度を下回る頃から除袋を行い、果実に付着した葉を摘み取る程度の葉摘みを行いましょう。



### ◆日焼け防止対策とキズ防止対策◆

日焼けの原因は ①昼夜の温度格差が大きい日、②最高気温28℃以上、③果実が冷たいうちに強い日差しを受ける、④葉の摘みすぎ（果実に養水分が供給できなくなり、気温と共に果実温度が一気に上昇し日ヤケとなります）などにより引き起こされます。着色管理（除袋・葉摘み・玉回し・支柱入れなど）を行う時間帯は、果実の温度が温まる午前10時～午後3時頃までに行いますが、前日の夜温が極端に低い日や、日中の温度が高温となる日などは時間に限らず注意しましょう。キズ防止対策として、『ミ・マモーレ』や『果実キズ防止パット』を使うと枝ズレの軽減となりますので積極的に使用しましょう。

### ◆薬剤散布◆

散布時期 反当散布量	対象病 害虫	薬剤名 及び混合順序	倍数	1000㎡当 薬量	収穫前 日数	年間使 用回数	防除上の注意
14回目 9月上中旬頃 特別散布 500%	すす病 黒星病 その他	展着剤 ストライド または オーソサイド	1,500倍 800倍	666g (333g×2袋) 1.25kg (1袋)	前日	3回 6回	①前回の散布から10～15日以内で、降雨前に散布。 ②黒星病は9月にも増殖します。来年の密度低下の為に、早生～晩生種、有袋無袋に関係なく全面散布。 ③オオタバコガやナシヒメシクイガなどが見られるところではフェニックスFやサムコルフを混用。 ④ハダニの発生が見られるところではダニ剤を混用。

※ ストライドは高温時散布で黄変落葉の恐れがあるため、高温時には散布を控えましょう。

品種に合わせた『適期適度な葉摘み』を行い、味・着色・肥大のよいりんごを生産しましょう。果実キズ防止パットやミ・マモーレなどを使用し、傷の少ないワンランクアップ品を目指しましょう！！